令和元年度　本庄市地域公共交通会議　（埼玉県本庄市）
（地域内フィーダー系統確保維持事業）

地域の公共交通等の現況

現在、本市の主要拠点間の移動手段は、本庄地域と児玉地域(平成１８年に本庄市と児玉町との合併により現本庄市となる)の間を結ぶ路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口の減少、マイカーの利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持継続が困難な状況が生じている。また、従来の公共交通だけではカバーしきれない、いわゆる交通不便地域が点在している。

網形成計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

路線バスといった幹線移動軸に接続する公共交通サービスを確保し、公共交通ネットワークを充実させることで、高齢者等の交通弱者の自立的な日常移動の支援や公共交通不便地区の解消を図る。

交通施策として実施した事業の全体像の概要

市内公共交通ネットワークを充実させるため、基軸となる路線バスに接続するフィーダー系統の運行を実施。フィーダー系統の運行により、公共交通を乗り継ぐことで市内を快適に移動することが可能になる。

補助対象事業の概要

市内の本庄地域と児玉地域を結ぶ路線バスを「地域間幹線系統」として運行し、両地域において地域間幹線系統に接続させる形で区域運行のデマンド型交通の運行をしている。また、交通結節点機能の充実を目的とし、本庄駅(ＪＲ高崎線)と本庄早稲田駅(上越新幹線)の両駅間を結ぶシャトル便(乗合バス型)を併せて運行している。

【シャトル便:「はにぽんシャトル」】
事業者名:本庄観光株式会社
運行系統:本庄駅～本庄早稲田駅　3．0km
運行日:365日
運行時間帯:9時～19時
運行本数:13．5往復／日
運行車両:ワゴン車
運賃: 200円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

【デマンド交通:「はにぽん号」「もといずみ号」】
事業者名:朝日自動車株式会社
運行区域:①本庄北地域、②本庄南地域、③児玉市街地、④児玉山間地域
運行日:月曜～土曜(日曜、祝日、年末年始運休)
運行時間帯:8時～17時(④児玉山間地域のみ、8時前、18時以降に通学用の運行)
運行車両:ワゴン車(①④地域)、セダン車(②③地域)
運賃:300円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

一部山村指定

面　積		89.69k㎡
人口（R2.1.1時点）		78,243人
	15歳未満	9,182人
	65歳以上	22,031人
高　齢　化　率		28.2%
世　帯　数		34,650世帯

網計画の策定年月日

未策定

協議会開催状況

○協議会の開催状況　　計23回開催

・平成27年度第1回（平成27年5月26日）
H28年度計画、改善点等の協議
（略）

・令和元年度第1回（令和元年5月24日）
R2年度計画、評価検証等の協議

・令和元年度第2回（令和2年1月9日）書面協議
R1年度事業評価の協議

前回の事業評価結果の反映状況

【デマンド交通】
〇新規利用者の獲得のため、広報紙上にPRを兼ねた懸賞クイズを掲載した。
〇評価検証の一環としてアンケートを実施した。
〇区域間共通の停留所設置し、利用者の利便性向上を図った。
〇利用方法についてより分かりやすく周知するため、地元ケーブルテレビに働きかけ、デマンド交通の乗り方についての番組を放送してもらった。

【デマンド交通】
〇評価検証の一環としてアンケートを実施した。
〇広報紙に利用案内を掲載し、利用促進を図った。

定量的な目標・効果

【評価指標・目標値】
〇利用者数（利用実績値の向上）
・デマンド交通：15,000人　　・シャトル便：11,500人
・地域間幹線系統（朝日自動車㈱路線バス）：前年度対比で増加
〇利用者満足度（運行サービスに対する利用者満足度の向上）
・デマンド交通：　満　足：85%以上、不満足：現状より減少
・シャトル便：　　満　足：85%以上、不満足：現状より減少

【当該指標・目標値を設定した理由】
・デマンド交通、シャトル便ともに、これまで最も多かった利用者数を目標値とし、市内公共交通ネットワークの充実を測るための指標として地域間幹線系統の利用者数を設定。利用者のニーズに応じた運行サービスとなっているかを評価するため利用者満足度を指標とする。

【効果】
・デマンド交通の運行により、交通不便地域の解消が図れ、高齢者等の交通弱者の移動手段が確保される。
・既存路線バス、デマンド交通及びシャトル便の相互の乗り継ぎにより、公共交通での市内移動が快適に行えるネットワークが形成される。

目標・効果の達成状況

【令和元年度利用者数実績】
・デマンド交通利用者数：11,983人　・シャトル便利用者数：13,408人
・地域間幹線系統：400,666人（前年度対比増）

【令和元年度利用者満足度実績】
・デマンド交通満足度：　満足41.2%　普通15.8%　不満26.3%
・シャトル便満足度：　満足50.9%　普通18.2%　不満29.1%

【目標を達成できなかった要因（分析）】
・デマンド交通の利用者数については、特定の利用者による運行の硬直化や、車両数に対し飽和しはじめている利用者数により、利用者の予約のニーズに応えられない頻度が多くなったことで利用者離れを引き起こしていると推測される。またこうした状況が満足度等に反映されている。シャトル便は利用者の増加に伴い、より利便性を求める声も多くなってきたと考えられる。

【目標を達成できた要因（分析）】
・シャトル便は、交通結節点（本庄駅、本庄早稲田駅）を結ぶ交通手段として着実に定着してきていることが利用者数に反映されていると考えられる。また、運行区域である庄早稲田駅周辺区域の人口増加も利用者数増加の一因であると考えられる。

【効果】
・公共交通ネットワークを充実させ、高齢者等の交通弱者の自立的な日常移動の支援や公共交通不便地区の解消に資している。

アピールポイント

路線バス(地域間幹線系統)、デマンド交通及び シャトル便の相互乗り継ぎの促進を図るため、 豊富な割引メニューを用意している。

今後の改善点

【デマンド交通】
利用者数の多い本庄北地域、本庄南地域の利用率が減少したことは、運行開始から6年が経過し、特定の利用者による運行の硬直化や、車両数に対し飽和してきている利用者数といった状況が、結果として「利用したい時間に予約が取れない」といったアンケートの声につながっており、利用者離れを引き起こしていると推測される。
このようなことから、デマンド交通未利用の自治会長へ試乗券配布、ケーブルテレビを通じての利用案内など将来的な利用意向につながるような取り組みを今後も進めるとともに、さらに予約システムや車両数について見直しを検討していく。

【シャトル便】
目標を上回る利用があり、アンケートでは満足と回答した利用者が半数以上占めている一方で、不満と回答した利用者の割合が前回に比べて増加した。利用者の増加に伴い、よりよい使い勝手を求める利用者が増えていることが考えられる。
運行本数、運行時間などについて、ほかの交通手段の役割も踏まえて検討していく。